

調査・研修等計画届出書

令和 元年 10月23日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 公夫



政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和 元年10月30日から10月31日まで（1泊2日）	
調査先・研修名	第14回全国市議会議長会議長会 研究フォーラム in 高知	
会場名（会場所在地）	高知県高知市布師田 3992-2 高知ぢばろさんセンター	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	今回のフォーラムでは、高知が生んだ国民的英雄である坂本龍馬の船中八策にならい「議会活性化のための船中八策」をテーマとし、現場の課題とその実現方策を考えます。 併せて、これからの議会像・議員像についても議論してきます	
議長名の依頼	要・ <input type="checkbox"/> 不要	依頼先（名称）
同行者名	山田治義・富田宗一・小沢勝・西本潤・三木雪実・長江公夫 戸田由久・宮菌伸仁・柴田利勝・高島淳・朝井賢次・11名	

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和 2年 4月 10日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 公夫



政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和 元年10月30日から10月31日まで（1泊2日）
調査先・研修名	第14回全国市議会議長会議長会 研究フォーラム in 高知
会場名（会場所在地）	高知県高知市布師田 3992-2 高知ぢばあさんセンター
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	今回のフォーラムでは、高知が生んだ国民的英雄である坂本龍馬の船中八策にならい「議会活性化のための船中八策」をテーマとし、現場の課題とその実現方策を考えます。 併せて、これからの議会像・議員像についても議論していきます
研修で学んだこと・キーワード等	
1. 基調講演「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」について (1) 内政面における政治はどのような仕事をしているのか、二つの側面を持つ。 ・お金を配分する問題は、リスクの社会化(大きな政府・セーフティネットの拡大・田中/大平内閣)と個人化(小さな政府・自己責任が基本・小泉/安倍内閣)とに分けられる。 ・価値をめぐる問題は、リベラル(寛容という価値を共有し合える自由である)とパターンル(強い権限を持っている人間が価値のあり方について介入する)とに分けられ、リベラル対保守という対立概念ではない。 ・政治を分析する場合は、リベラル対保守という軸ではなく、お金と価値の問題をめぐる、位置づけをしていくべき。	

(2) ラディカルデモクラシーとポピュリズム

・直接的な政治参加の在り方と政治というのは主権者のものであるという在り方が出現して、対抗軸を作り真っ向から戦いを挑んでいく政治姿勢が出てきた。

(3) 保守とは何か

・「保守」・・・永遠の微調整を漸進的にやっていくこと。これは結局リベラルという考え方に接近していく。

・他者の意見を聞きながら合意形成をしていくという自由を尊びリベラルを尊重することにより、リベラルと保守が組んだ時に重要な選択肢が生まれる。

2. パネルディスカッション「議会活性化のための船中八策」

(1) 「EBPM」・・・すべての政策はエビデンスとデータに基づいて決めるべきという考え方であり、これから地方議会でも厳しく問われる。

(2) 地方選挙の統一で投票率の向上を図るとともに、選挙区制の在り方を再検討して、何を代表しているのかを明確にする。

(3) 行政の監視機能を強化するために、決算審査のやり方を見直す必要あり。

(4) 「未来カルテ」の活用・・・20年後のための議論を幅広い層で行う。

(5) 会議の人員構成で若者の比率を増やすことやテレビ会議を活用する。

(6) 女性議員を増やすには、複数投票制を導入するのも一つの方法である。

3. 課題討議「議会活性化のための船中八策」

(1) 若者や女性を取り込みながら議会改革も同時に進めていくことが議員を目指す人を獲得する最大の力である。

(2) 女性議員が働きやすい環境を会議規則の改正によって整えていく。

(3) 基本条例を制定してしまうと条例に縛られ、機動性と柔軟性が失われるのではないかという声があり、議会改革を前向きに実践することにより実を上げていく方法を採用している議会もある。

(4) 審議のための詳細な資料を理事者に作成させている・・・これにより共同作業的な監視機能を果たしている。

(5) 議会内での情報の共有と超党派の活動を支える枠組み作りが必要である。

(6) 所管事務調査の積極的な実施と施策そのものを評価する必要がある。

(7) 議会モニター制度の実施と模擬議会の実施。

(8) 情報公開の徹底が必要。

研修（受講後の感想）

1. 「リベラル保守の可能性」について

(1) 基本的に保守の中心にあるのは、懐疑主義的な人間観である・・・自分だって間違えやすいと考えることにより、自らと異なる意見のある人の声に耳を傾け

る。そうすることによって合意形成が始まる、これが保守政治の姿である・・・とされるのは、普段の議会の中で少数意見に耳を傾けつつ、合意形成のために全会一致を目指すことを先輩議員から教えられてきたことでもあり、現在の議会での合意形成の在り方とは、少しながら異なってきたとも思います。しかしながら、たとえば構成員全員が守るべきルールを決めるのであれば、時間もかかるが全会一致を目指して決めることが必要であり、かつ理想とすべきものであると改めて思いました。さらに、そうする事こそが保守の立場にあるものの役割ではないかと思いました。

(2) 対立軸を明確にして、それに攻撃姿勢をとることで自らの支持を得る政治手法についても言及されておりましたが、対決の構図の中から合意形成を目指すのは困難な場面も想定されるのであり、「政治は60点でなければならない」との言葉のように、ただ目指すところが一致するのであれば、決して合意形成をあきらめることなく取り組む必要があるものと実感しました。

2. 「議会活性化のための船中八策」について

(1) 様々な議会活性化のための取り組みが報告されていたが、本市でもすでに取り組んでいることも多くあり、その実を上げるための途上であると思います。どの議会でも、議会の姿を市民の皆さんに、いかに分かり易く理解をしてもらうのがその出発点であり、そのための契機をいかにつくるのかを常に考えていく必要があると改めて思いました。

(2) 市民の皆さんに近づいていく取り組みとして、様々な形での意見交換会や委員会活動の活発化、議会報の充実等の報告がありました。その中でも、議会モニターの例がありましたが、その方法も様々であり、また議会活動にどのような効果があるのか、よく調査する必要があるものと思いました。何のために、どのように議会活動に活用していくのかを明確にする必要があると思います。そうしないと単に市民の声を聞いただけになってしまうように思います。

(3) 基本条例が議会改革の足かせとならぬように、機動的に柔軟性をもって改革に取り組むという方向性もあってしかるべきと思いました。基本条例があることにより、進めていくことも多くあるものの、会議規則や先例等の見直しなどの点で、まだまだ取り組むべきことは多くあるものと思います。現在の制度が制度疲労を招いてはいないか、女性の参画等の障害とはなっていないかなど、考えていくことは、まだまだ多くあると思いました。

(4) 政策提案もさることながら、予算・決算の審議をより充実させるなどの行政の監視機能の強化が必要であるとの指摘は、まさにその通りであると思います。今後、審議のための資料の充実も進めながら、我々議員の知識や見識の向上がまさに、より必要とされるのであり、そのために必要な研修などを積極的に受けたいと思います。